

活動報告

元衆議院議員・公認会計士・税理士 若松謙維

2012年7月1日～12月31日

12月16日投開票の衆院選総選挙では、480議席中、自公両党で325議席を獲得（自民294、公明31）し、12月26日特別国会召集、首班指名を経て、第2次安倍内閣（自公連立政権）発足となりました。

公明党は、前回9小選挙区完敗から、北海道10区の新議席を含む完勝で、さらに比例区1議席増の大勝利となりました。応援いただいた方々に、心から感謝と御礼を申し上げます。

本年1年間、多くのご支援ご指導を賜り、本当にありがとうございました。明年7月の参院選で、私は全国比例区（候補者名投票）の公認をいただき、現在、全速力で疾走中です。明年も大変お世話になりますが、皆様のご期待以上の戦いを展開してまいりますので、何卒、宜しくお願い申し上げます。

1. 政局

（1）自公政権下第2次安倍内閣発足、通常国会、都議選、参院選

9月21日、民主党代表選で野田総理（当時）が圧勝（野田818、原口154、赤松123、鹿野113）で再選され、「近いうちに解散」が焦点となりました。「有言実行」にこだわりを持つ野田総理は、衆議院解散明言のタイミングを、11月14日の党首討論に求め、野田総理から安倍総裁へ、国会議員歳費と定数の削減を唐突に提案し、その場で安倍総裁が受諾する旨を伝え、急転直下の2日後の11月16日解散となりました。

今回の選挙戦を複雑にしたのは、民主党から自民・公明への政権交代のほかに、日本維新の会など新たな第3極政党の乱立でした。その結果、12の政党による選挙戦となったため、国民が政党選択に迷ったのか、59.3%という低投票率（前回69%、今までの戦後最低は1996年の59.6%）による比例区の得票減（自民1,881万票→1,662万票、公明764万票→712万票）にも関わらず、自民圧勝（294議席）、公明議席増（21議席→31議席）という消極的大勝となりました。分析すると、自民+民主の票は、2003年の72.3%に対して2012年が43.6%と激減し、維新・未来・みんな3党で34.8%と、二大政党離れが鮮明になってきました。さらには、自民党の2003年得票数は、小選挙区2,600万票、比例区2,060万票（票差540万票）が、2012年は、小

選挙区が2,560万票、比例区1,660万票（票差900万票）と、比例区の自民党離れはさらに顕著となっています。これは、民意が小選挙区制度でゆがめられているとの見方もでき、選挙制度の抜本的改革で大きな論点となることが予想されます。

12月26日の首班指名を受け、即日第2次安倍内閣が発足しました。そして年末年始を挟んだ安倍新政権での大型補正予算と平成25年度税制改正も含んだ予算編成作業（15か月予算）が始まります。このため、明年の通常国会の召集日は1月28日が想定されており、6月26日までの会期（150日間）となる予定ですが、6月下旬には東京都議選が予定され、7月には参院選があります。

明年7月までの戦いは一つとして負けられない、緊張と全力の日々が続きます。公明党結党50周年を大勝利で迎えるため、「勝つ一念」の決意も深くし、「目の前にいる人を味方にする」戦いに全力を尽くしてまいります。

（2）アベノミックス政策と社会保障・税一体改革

アベノミックスと呼ばれる経済政策は、日銀法改正をにらんだインフレターゲット2%を政府と日銀との政策協定とし、さらに日銀の国債購入等の金融緩和を伴って、円安誘導（2011年末76円台→2012年末86円台）と株価上昇（2011年末8,455円→2012年末10,395円）を狙ったデフレ対策政策です。その実効性を高めるため、平成25年度当初予算の成立の遅れの影響も折り込み、10兆円規模の大型補正予算と、防災減災ニューディールを絡めた政府主導の経済対策が効果を表すかが問われ、その結果次第では、次期参院選の政策および選挙戦術に影響を与える状況となります。

社会保障と税の一体改革関連法案の具体化も大きな焦点となってきました。特に、2014年4月から消費税率8%に上げる時点での軽減税率導入の内容ですが、自公政権では実施する意向が選挙戦各場面で表明され、今後、軽減税率対象品目が国民の高い関心となります。また、消費税率アップの前提となる経済環境の見極めも重要な課題であり、2013年の最重要課題の一つには変わりありません。

定数削減もにらんだ衆参の抜本的な選挙制度改革も具体化しなければなりません。当面の経済財政、TPP、外交立て直し等、民主党の負の遺産を処理することが優先され、実質的な議論は、通常国会の終盤頃になるものと予想されます。

（3）次期参院選への出発

大敗した民主党は、12月25日の代表選で、海江田万里元経済産業大臣を選出（海江田氏90票、馬淵氏54票）し、参院選での巻き返しの戦略と体制の見直しが余儀なくされています。一方、第2次安倍内閣では、麻生氏、谷垣氏等、重量級の人材を起用し、党側は野田総務会長、高市政調会長と、女性議員を登用

するなど、新しい自民党を演出しています。

安倍総理も、長期安定した自公政権を確実にするため、経済・雇用対策最優先の政権運営を心がけていくと予想されます。

私も、大勢の支持者のご支援をいただきながら参院選準備に突入しており、12月24日には天童市で後援会を結成していただきました。また、私が支援をいただく東北や北海道等の方々に、私の人となりと私の掲げる政策を理解していただくための出版作業も開始しました。東北・北海道を地盤とする候補者として、過去最高の結果を持って、約20年間ご支援いただいた支持者の皆様は大いに喜んでいただく結果を出すため、明年7月までの一日一日、全力で疾駆してまいります。

2. 党 務

(1) 選挙関係

① 冬の衆議院総選挙

過去6回の衆議院総選挙では私はいずれも候補者でしたが、今回は参院比例区候補者としての公認をいただいていたため、初めて、応援側としての戦いをさせていただきました。

11月16日の解散日当日は、当初から予定されていた「郡山国政報告会」が行われ、衆議院比例区候補者となったばかりの井上幹事長が駆けつけ、衆院比例名簿登載2番目の真山祐一候補との出陣式となりました。私の戦いは、衆院選候補者が出席できない場合に公明党を代表して、「比例区公明党」を様々な会合で訴える戦いでした。

11月18日には、10年以上連続出場していた上尾シティーマラソン5kmに参加（タイムは25分58秒と、昨年より18秒短縮し、4年ぶりの記録向上）したあと、午後には福島1区の自民党候補者の応援演説、その夜は会津若松市に移動し、講師としてエジプト考古学者の吉村作治先生が出席される公明党の時局講演会に参加しました。

12月16日の投開票日までの最後の2週間は、郡山市の自宅に帰宅したのは一日のみで、他の日はすべてホテルまたは旅館を移動しながら、応援の戦いを行いました。公示日の12月4日は、会津若松市の自民党候補者に公明党の推薦状を渡し、当会場で「比例区公明党」を訴えました。大雪の12月9日には、郡山から会津若松市に移動した時の積雪量は20cmでしたが、午後は喜多方市一ノ木に移動し、夜は南会津市田島の政談演説会に出席し、この日は雪によるわだちのでこぼこ道350キロを移動し、会津若松市内に戻ってきた時は積雪量が50cmを超えていました。翌朝の同市内での企業朝礼挨拶は、各社とも雪かき作業に追

われ、すべてキャンセルとなり、東北の冬の選挙の難しさを実感しました。

公示期間中の12日間で東北6県すべてを回りましたが、会津若松市の自民党候補者の後援会が、特に積極的に「比例区公明党」を訴えていただいたため、4日間は会津地方の戦いに集中しました。

東北ブロックの公明党得票数は398,131票（前回516,688票）と減少率が大きかったにも関わらず、比例区2番目の順位は18位（定数14）と、2009年の私が候補者の時と同順位となり、31歳の真山祐一新人候補と一緒に、踏ん張りの戦いができたと確信しています。

② いわき市議選

9月9日、東北第二の人口を有するいわき市で、定数37の市議選が投開票となり、投票率低下にも関わらず、いわき市に避難されている支援者の熱い応援もいただきながら、公明党候補者4人（前回3人）の総得票数は前回より568票増という1議席増の戦いを勝利することができ、順位は3・4・7・9位と、全員上位当選をさせていただきました。

私も延べ4日間、同業者である公認会計士、税理士、行政書士を中心に支援を訴えて回りました。

（2）東日本大震災関係・福島復興プロジェクト

現在、うつくしま復興対策本部とみやぎ復興プロジェクトの総合本部長に就任していますが、今年下半期は、月2回のペースで被災地をたずね、現地の様々な相談を受けました。

大きな成果は、福島県での18歳以下の医療費無料化の実現です。1月8日の山口代表の福島県入り日程に同行し、福島県本部地方議員とともに、「福島県民18歳以下の医療費無料化」を要望しました。その要望が野田総理に直ちに伝えられ、総理から実行に移す約束を得たにも関わらず、厚生労働省から簡単に拒否されました。それから公明党のチーム力です。井上幹事長の本会議での代表質問、各地方議会での要望書決議、党员支持者による署名活動等が功を奏し、10月1日から、全国初の18歳医療費無料化が福島県民に適用されることになりました。

10月9日は、25万部発行されている月刊誌「第三文明」による福島復興シリーズの対談が行われ、エジプト考古学者の吉村作治先生と富田孝志元福島県教育長、そして私の3人による対談の内容が12月号に掲載されました。「福島の復興と、文化の力が果たす役割」のテーマは、被災者の住宅や生活資金等のお金の支援ばかりに目が向かい、肝心の「心の復興」に文化が果たす役割が欠けていることを気づかせてくれた大変意義のある対談でした。

10月16日、17日は公明党都議を相馬市の除染現場と相馬漁港にお連れし、土湯温泉の風評被害対策の聴取と福島市内の米全袋検査も視察してもらい、福島

産米の安全性を確認していただきました。

12月30日は、郡山市富田町にある仮設住宅をたすね、避難者から生活、就職状況等の悩みをお聞きし、いくつかの要望を受けました。明年も、本年以上に被災者に寄り添う戦いに挑戦して参ります。

(3) 公明党全国大会と次期参院選へ始動開始

9月20日の中央幹事会で、私を含む明年7月の参院選の全国比例区（候補者名投票）候補者としての公認が承認され、9月22日の全国大会では、衆院、参院候補者全員の紹介とシュプレヒコールが行われました。

10月7日には、北海道本部大会で決意表明をさせていただきました。

その後、各県本部および総支部大会に出席させていただき、参院選の前哨戦となる衆院選支援への決意表明をする機会を多くいただきました。

(4) 公会計と公明党防災・減災ニューディール経済政策

本年4月に、公明党が「防災・減災ニューディール政策」を発表して以来、その政策の説明を求められる機会が増えてきました。私は、長年「公会計改革」に関わってきたため、近年の緊縮予算による公共インフラへの予算額が減少した結果、必要なインフラ資産の補修・修繕が後回しになっていることを憂慮していました。一方、地方自治体の7割が固定資産管理台帳を作成しておらず、毎年10兆円の公共インフラ資産改修の予算投入が、本当に必要なところに投入されるか危惧しています。このため、7月8日に行われた東北6県の夏季議員研修会では、青森、秋田、福島、山形4県で「公会計と固定資産管理」をテーマに講演を行いました。

(5) 東北元気アッププロジェクト

10月20日、「秋田21女性の会」が主催する「誘われて秋田美人街道フェスタ」が由利本荘市で開催されました。私も企画段階から助言させていただき、酪農家、ホテルゲスト担当者、介護士等、さまざまな分野の秋田美人が登場し、実行委員長の作家石川好さんも絶賛していました。私は日本さくらの会監事として、さくら300本の贈呈を行いました。

3. 公認会計士・税理士・行政書士活動

(1) 自治体公会計-東北大学会計大学院で講演

10月25日、公認会計士の先輩が東北大学会計大学院で講師をされている関係で、この日、私に「公会計」講義の機会を提供してくれました。時の話題であ

った「社会保障と税の一体改革」の背景を説明しながら、公会計の重要性を説明させていただきました。

大学院生20名、教授10名の皆さまが熱心に聞いてくださり、質問タイムの時、経済環境が不安という院生には、「志が強ければ、全てを乗り越えられる」と訴えましたら、院生は笑顔で反応してくれました。また、教授の方からも質問をいただくなど、意義ある講義が出来たと思います。

(2) 新公益法人認可支援・原発被害支援

今年の1月より、都内にある財団法人の公益認定移行支援のコンサルティングを提供してきました。そして、9月28日、電子申請による公益財団法人への意向申請手続きを完了し、今後は来年3月までの正式な公益認定取得まで支援業務が続きます。

公益法人改革は、私が衆議院議員時代に火をつけた政策のため、自ら監事を務める当財団の公益移行支援は当然の成り行きでした。しかし、もともと公益法人の事務スタッフはわずかであり、私の新橋事務所スタッフと二人三脚で支援業務を行い、この日に辿りつくことができ、公益法人支援の大きな実績ができました。

また、放射線による風評被害を受けた会津地方のコメ専業農家の原発損害賠償支援業務も、粘り強い関係機関との交渉現場に立ち会い、前例のない損害賠償事例も勝ち取りました。

現場第一主義から得た突破力で、日本再建に全力で挑戦してまいります。

4. 市民フォーラム・その他活動

(1) グローバル・インターネット

7月30日(月) 猛暑の夜、大宮ソニックシティで、日本総研理事長の高橋進氏を講師に迎え、「消費税増税と日本経済動向」と題してセミナーを開催しました。参加者も50名を超え、矢倉かつお予定候補者(参議院埼玉選挙区)も交えて、熱心に勉強しました。

社会保障と税一体改革の方向性が見えた後の講演でしたが、高橋氏が懸念する日本経済力の弱体化を乗り越える材料の枯渇化は全く同感しました。やはり、歳出改革なくして財政再建、日本再建なしと、改めて確信しました。

次回は、明年1月23日(水)夜、「首都圏直下型地震の可能性」をテーマに、地震学専門家を交えて開催します。

5. 若松事務所の現況報告

10月22日、自宅を郡山市に移し、引き続き、下記4拠点を中心に、東北を駆け巡り、明年は北海道も活動範囲を広げてまいります。

①**郡山事務所**—若松会計事務所は、下記事務所に移動しました。公明党福島県本部と近いため、同県本部職員の亀井さんと真山さん（男性）が政治活動をサポートしてくれています。

*自宅兼事務所：福島県郡山市清水台2-6-18 グリーンウッド601
Tel:024-927-5970 Fax:024-927-5971

②**仙台事務所**—東北元気アッププロジェクトの拠点であり、東北の情報が集まっています。吉田さん（男性）のサポートをいただいています。

*事務所：宮城県仙台市若林区新寺5-9-20
Tel:022-713-0261 Fax:022-713-0264

③**上尾事務所**—公認会計士業務および資金管理団体（市民フォーラム）の活動拠点であり、5月から、8年前まで若松事務所の事務長で、その後、鴻巣市議を務められ勇退した町田さんが復帰し、妻の協力もおおぎながら、戦力強化できました。

*事務所：埼玉県上尾市仲町1-4-16
Tel:048-777-3515 Fax:048-777-3516

④**新橋事務所**—企業新生、事業再生、税務コンサルティング等、高度な相談事項はほとんどが新橋事務所で行われます。NPO法人行政再生の活動拠点にもなっています。末松さん（新人女性）がサポートしてくれています。

*事務所：東京都港区西新橋3-5-2
Tel:03-5777-2123 Fax:03-5777-2130

以上